

4

市のよしみとくらしのうつりかわり



くさつ 草津市の様子や人びとのくらしの様子は、どのようにうつりかわってきたの



↑1935(昭和10)年ごろの様子

うつりかわる市とくらし

今と昔をくらべてみよ



気づく

昔の草津市は、どのような様子だったのだろうか。

写真を見て気づいたことや、今の様子とのちがいについて話し合おう。

かわってきた市の様子

同じ場所から国道1号を撮影した写真を見くらべて、今と昔の様子について話し合っています。



「昔は、あまり車が通っていなかったんだね。」



「今は道路ぞいにたくさんさんの建物がたっているよ。昔とずいぶんちがうね。」

そこで、それぞれの時期の様子をもっと調べてみることにしました。

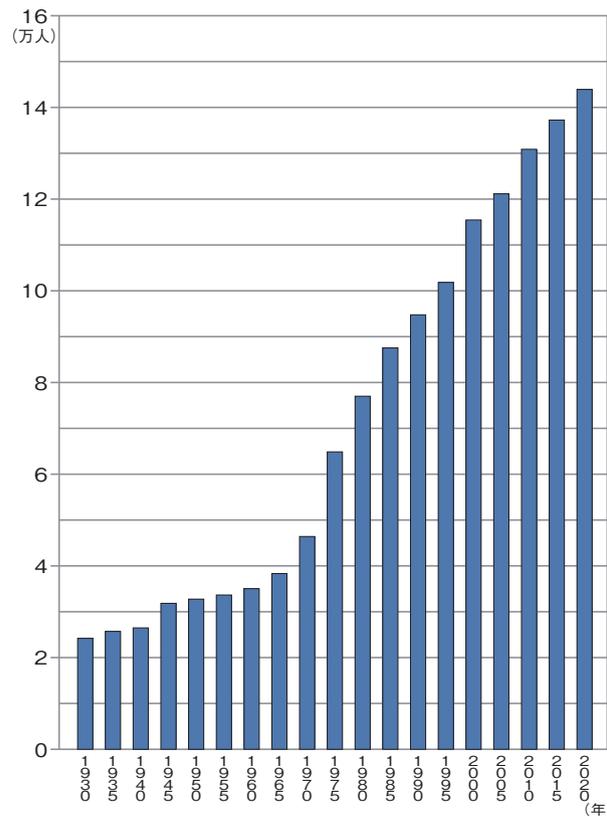
でしようか。写真や資料しりょうをもとに気づいたことを話し合ってみましょう。



1963(昭和38)年ごろの様子



現在の様子



草津市の人口のうつりかわり (国勢調査より)

草津市の人口

市の様子が変わるだけでなく、市の人口が大きくふえていることに気がつきました。



「1970(昭和45)年ごろから、急速きゅうそくに人口がふえてきているよ。」



「どうして、草津市の人口はふえ続けているのだろう。人口がふえると、どんな変化へんかがあるのかな。」

調べる

草津市がいつごろ、どのようにかわってきたのか調べてみよう。

見方・考え方のポイント

今と昔で、どんなところが変わったのだろう。変わったところ・かわっていないところに注目して、考えてみよう。

気づく

道路や鉄道はいつできて、市の様子はどのようにかわったのだろう。

見方・考え方のポイント

草津市の交通は、どのようにかわってきたのだろう。

交通の広がり^{じんこう}と人口^{じんこう}がふえたことには、どのようなつながりがあるのだろうか。予想^{よそう}してみよう。

交通の様子

昔^{むかし}は、新名神高速道路^{めいしんこうそくどうろ}が通っていなかったことを家の人に聞きました。そこで、年表を使って、道路や駅など交通の様子がどのようにかわってきたのかを調べることにしました。



「橋がかけられたり、道路が広がったりしているね。」



「南草津駅ができて、電車もたくさん^と停まるようになっているよ。」



「交通が広がると、住んでいる人のくらしもかわったのかな。」

と き		草津市のできごと
1964年	昭和39年	東海道新幹線が通る 琵琶湖大橋ができる
1965年	昭和40年	名神高速道路が通る
1967年	昭和42年	国鉄草津駅が県内初の橋上駅舎となる
1971年	昭和46年	国鉄草津駅発着となる新快速電車の運転が始まる
1974年	昭和49年	近江大橋ができる
1994年	平成 6年	JR南草津駅ができる
2005年	平成17年	新名神草津・田上インターチェンジができる
2007年	平成19年	JR南草津駅西口広場ができる
2008年	平成20年	新名神高速道路が開通する
2011年	平成23年	JR南草津駅に新快速電車が停まる
2013年	平成25年	「まめバス」本格運行が始まる



近江大橋の開通(1974年)



開業したJR南草津駅(1994年)



↑名神高速道路付近(1988年ごろ)



↑名神高速道路付近(2008年ごろ) (国土地理院の写真を改編)



↑JR草津駅付近(1988年ごろ)



↑JR草津駅付近(2008年ごろ) (国土地理院の写真を改編)

土地の様子

土地の様子がわかる航空写真を見て、気がついたことを話し合いました。



「新しい高速道路ができているね。山地が少なくなっているね。」



「田んぼがへって、家がふえているね。」



「人びとのくらしはどのようにかわったのかな。」

気づく

草津市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのだろう。

見方・考え方のポイント

草津市の土地の様子がかわってきたのは、なぜだろう。人口の変化、交通の様子の変化とつなげて考えてみよう。



くさつがっく
草津学区の記憶絵
を見ることができます。
今とちがうところをさがしてみよう。



気づく
生活道具の変化によって、
人びとのくらしはどのよう
にかわったのだろう。

道具
昔のくらしで使っていた
道具は、身近にある材料を
むだなく利用し、何に使う
かを考え、くふうして作ら
れました。

身のまわりの古い道具

おばあさんの家で、見たことないもの（右の写真）を見つけました。



「これは何に使うものなの。」
「これはね、せんたく板といって、
たらいでせんたくをする時に使っていたんだよ。」

他にもいろいろな道具を見つけたので、昔の道具についてくわしく知る方に聞いてみることにしました。

なぜ、せんたく板にはギザギザがあるのかな？

見方・考え方のポイント
昔のくらしで使っていた道具には、どんなくふうがあるのだろう。どのようにかわってきたのだろう。

ふるさと玉川「民具を照らす会」 山上さんの話



昔の道具には、昔の人のちえとくふうがたくさんつまっています。

たとえば、せんたく板の上の方にあるくぼみは、せっけんを置くところです。板の真ん中にある波のもようは、表とうらでちがいます。あらう面はせっけんのあわがたまって、よごれがよく落ちるように上向きの波になっています。すすぐ面は水が流れやすいように下向きの波になっています。すべて手であらっていたので、冬はとても水がつめたくて大変な作業でした。

「せんたく板にはいろいろなくふうがあるんだね。」

「他の道具にも昔の人のちえやくふうがあるのかな。調べてみたいね。」

調べていくうちに、せんたくで使う道具がだんだんかわっていることに気がつきました。



ローラー式洗濯機



二層式洗濯機



全自動洗濯機

「くらしをよりよくするために、道具はかわってきたんだね。」

調べる

くらしの中でどのように使われていたか調べてみよう。

昔の道具見学カード(例)



見てくること

- ・道具の形、色、大きさ、さわった感じ
- ・どんな材料が使われているか

聞いてくること

- ・道具の名前
- ・いつごろ使われたのか
- ・どんなことに使うのか

昔の道具を調べよう



🔍 見方・考え方のポイント

草津市の公共しせつは、だれが、どのような思いをこめてつくったのだろう。

草津市の公共しせつの写真や場所の地図が15, 16ページにのっているよ。見てみよう。



📍新しいグリーンセンター

📖 税金

国・県・市などに、そこに住んでいる人が納めるお金のこと。みんなの安全で幸せな暮らしを守るために使われます。

表現する

市のできごとや、暮らしと道具のうつりかわりを年表などにまとめましょう。

す 住みよい草津市をめざして

草津市には、さまざまな公共しせつがあります。以前は草津市の図書館は、1つしかなかったことを聞きました。



「公共しせつは、どんどんふえてきているんだよ。」



「どうして、ふえてきているのかな。だれが作っているのかな。」

そこで、市役所の人に聞いてみました。

市役所ではたらく人の話

市役所は、市民のみなさんの生活をささえる仕事をしています。たとえば、みなさんの通っている小学校のしせつを直したり、新しく校しゃを建てたりしています。ほかにも、図書館や体育館、給食センター、ごみをしよりにしているグリーンセンターなどの市のしせつを市役所で管理しています。

これらのしせつを建てるためのお金は、みなさんから集めた税金をもとにしています。

市民がよりよい生活を送るために、人口とともに図書館や公園などの公共しせつもふえてきたことがわかりました。

そこで、今まで学習してきた市や暮らしのうつりかわりを年表にまとめることにしました。



①老上西小学校



②第二学校給食センター



③草津川跡地公園 ai彩ひろば

これからの草津市

草津市の美しい自然と文化を大切にしながら，すべての市民が気持ちよくくらしがいていけるような，けんこうで明るい住みよい町づくりを進めていくことがひつようです。このような町をつくるためには，どうしたらよいか，みんなで考えてみましょう。

なぜ、河崎さんは、このような活動をしているのだろう？

矢倉地域文化継承プロジェクト 河崎さんの話



わたしは、小学校で子どもたちと学習するとき、「めぐみ・きずな・つなぐ」という言葉を、いつも伝えています。

わたしたち人間は、自然や命のめぐみをいただきながら生きています。また、昔から人びとは助け合い、協力し合っ

て生活してきました。人と地域のきずなを大切にしてきたのです。そして、生活のために、より便利な道具が作られ、大切にしてきました。この思いや生き方を次の世代へつないでいくひつようがあります。

時代はこれからも変化していきます。しかし、めぐみに感しゃすること、人とのきずなを育むこと、そしてくらしのちえやくふうを、これからの未来を生きる子どもたちへつないでいき、子どもたちが草津を「自分のふるさと」と言えるように、これからも活動したいです。



これからの住みよい町づくりのために、自分にできることはどんなことだろう。考えたことを話し合おう。